とうかい

2025 年 3 月 16 日　NO.671

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会　広報部
〒460-0018　名古屋市中区門前町1番23号
東海教区教務所内
TEL 052-321-0028　FAX 052-332-4097
e-mail　info@tokai-hongwanji.net

東海教区勢南組　活動報告

勢南組は三重県中部の松阪市から伊勢志摩、そして紀勢東紀州の南部まで三重県の半分以上の範囲でありながら２４カ寺しかありません。組内の端と端の寺院では以前は車で３時間以上かかっていましたが、今では高速道路が出来たことにより所要時間が短縮されました。それでもまだ２時間以上かかる所です。そのため行事や会議等は組の中心に位置する善覚寺さまをお借りして活動しています。

昨年令和 6 年 5 月 18 日には善覚寺さまにて、親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要を修行・実施致しました。法要後には記念法話といたしまして、前名古屋別院輪番の熊谷正明師にサックス演奏を交えてのご法話をお願いし、たくさんの方にお参りいただきました。

僧侶研修会、同朋研修会については毎年開催しており、今年度は近江八幡で「御坊さん」と親しまれている本願寺八幡別院へ観光バスにてお参りし、織田、豊臣、徳川と本願寺八幡別院との歴史の流れについて説明をいただきました。

範囲の広い勢南組ですので、このような研修会等を通して、寺院間、ご門徒間の交流に繋がっていければ良いと思っております。

Contents

勢南組活動報告	P1
こころばなし	P2
書棚/映画	P3
特集①	P4.5
特集②	P6.7
声/編集後記	P8

慶讃法要の様子

『お彼岸によせて』

正親　一宣（中勢組正覚寺）

今年も早いもので、春のお彼岸を迎えようとしています。「彼岸」とは、仏さまのおさとりの世界であるお浄土のこと。浄土真宗のお彼岸は、懐かしい方々を偲びつつ、私のいのちの行き先として、阿弥陀さまがお浄土をご用意くださったことを改めてお聞かせいただくご縁だと受け止めています。

お浄土について、『仏説阿弥陀経』には、

「これより西方に、十万億の仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽といふ」

（『註釈版聖典』121 頁）

と示されます。しかし『仏説観無量寿経』には、

「阿弥陀仏、此を去ること遠からず」

（『同』91 頁）

と示されています。これはどういうことでしょうか。

本願寺第 8 代宗主である蓮如上人は一休さんと交流がおありだったようです。こんなお話が残っています。ある時、一休さんがお浄土について、次の歌を詠みました。

「極楽は 十万億土と 説くならば 足腰立たぬ 婆（ばば）は行けまじ」

お浄土が果てしなく遠いのであれば、足腰の立たない人は行くことができないのではなかろうか。そのことを一休さんは詠まれたと言います。この歌を聞き、蓮如上人は次の歌を返されます。

「極楽は 十万億土と 説くなれど 近道すれば 南無のひと声」

お浄土は確かに私からすれば果てしなく遠い世界です。しかし、その私に開かれた「南無阿弥陀仏」という仏道、近道があるんだと見事に詠まれました。

『阿弥陀経』に説かれる「十万億仏土」というのは、私の心と仏さまの智慧の隔たりが表されています。煩悩が満ちていて、仏さまのような智慧なき私たちには、自らの力ではお浄土へ行くことも近づくこともできません。仏さまの智慧がどれほどにすぐれたお心であるのかということが「十万億仏土」には込められているのです。

自らの力ではお浄土に行くことができない私のすがたを悲しまれ、この者こそを救わずにはおれんと立ち上がってくださったお方が阿弥陀如来でありました。「阿弥陀仏、此を去ること遠からず」と示されるように、阿弥陀さまはどこか遠くでじっとされている仏さまではありません。「南無阿弥陀仏」、お念仏の声となって私のもとに届いてくださっているのです。「我にまかせよ、必ず救う」と私を抱きかかえ、命を終えていく時にはお浄土へと連れ帰ってくださる。仏さまと成らせていただく身にもう既に仕上げていただいていたのでありました。

阿弥陀さまから私に届いてくださるとお聞かせいただく時、「十万億仏土」が単なる隔たりではなく、阿弥陀さまのお慈悲のお心の大きさであったと味わわせていただきます。仏さまと真反対の私を救わんが為にご苦労くださり、「十万億仏土」の隔たりを超え、今、この私のもとへといたり届いてくださっていました。

今年もお彼岸を迎えるにあたり、懐かしい方々のことが思い返されます。お念仏申しつつ、懐かしい方々の待つお浄土に生まれ、仏さまと成らせていただく身であることを大切にお聞かせいただければと思います。

『ファスト教養 10分で答えが欲しい人たち』 著者　レジー　集英社新書

著者は「社交スキルアップのために古典を読み、名著の内容を YouTube でチェック、財テクや論破術をインフルエンサーから学び『自分の価値』を上げる」ような「教養論」のことを「ファスト教養」と定義している。

中流層の没落と格差の拡大などの社会背景もあり、ビジネスパーソンの先行きへの不安が増している。ここにフィットしたのが「教養」であるが、ファスト教養はこの不安に答えることをねらいにしているため、本来の教養とは目的が異なる。ファスト教養の目的は「人生」を豊かにすることではなく、「財布」を豊かにすることと明示されている。このため、映画や音楽、古典など、あらゆるものの上澄みだけさらっておいて、ビジネスの場面で活かそうとする。ちまたにあふれる『教養のための○○』という書籍は、先行きへの不安から手っ取り早い教養を求めているビジネスパーソンが多いことを表している。（教養のための仏教なんていかにもありそうである）

読んでいて、「さとりって一言で言えば何なんですか？」というような構文にも通じるものがある気がした。

ひろゆきや堀江貴文、勝間和代、中田敦彦など 2000 年代以降にビジネスパーソンから支持されてきた人物の事例も多く、とても読みやすいので、現代社会の一面を感じたい方はぜひ。

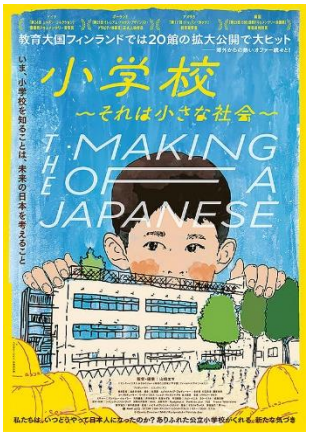
『小学校～それは小さな社会～』 監督・編集　山崎エマ

今作は、「６歳児は世界のどこでも同じようだけれど、12 歳になる頃には、日本の子どもは”日本人”になっている」という思いをきっかけに、公立小学校を舞台に制作されたドキュメンタリー作品である。コロナ禍の１年間、長期取材を要した本作は、教育大国フィンランドで大ヒット、米アカデミー賞にもノミネートされ、掃除や給食の配膳などを子どもたち自身が行う日本式教育が注目を浴びている。

「いま小学校を知ることは、日本の未来を考えること」という作品のメッセージを受け、小学生の子どもたちを連れ映画館に足を運んだ。

５年生の娘は、涙を浮かべながら、自身のリアルな学校生活と照らし合わせているようだった。映画にでてくる１年生の担任の先生が「『自由と制限』のなかでまるで平均台の上を歩いているようだ」とおっしゃった言葉が印象に残っている。

正直日本の未来を考えることは容易ではないけれど、今の時代の小学校という現場で、一生懸命悩みながら日々を過ごす小さな子どもたちと大人達の姿に胸をうたれた。帰り道、１年生の息子が私に背を向け「ママ、小学校って忙しいのわかったー？」と一言。これからは「おかえり」とともに「今日もお疲れさま」とフル活動な子供たちをねぎらうことに決めた。只今公開中！是非映画館で。



おしえて
第2弾

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会ってどんな組織？

前回は
「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会の中の3つの団体の代表の方にお話を聞いたんだよね。皆さんが課題に感じていることっていろいろあるんだなあ。今回はどの団体かな。

広報部　日野

ごんごんちゃん、今回は「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会の中の4つの団体の代表の方に、どんな活動をしているか、課題と捉えていることは何か、聞いてみたよ。
～各団体の皆さま、アンケートへのご返答ありがとうございます。順不動にて掲載しております。

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区組織図

※前回（とうかい No.667）の図の中で
社会福祉推進協議会の名称を誤って記載しておりました。
訂正してお詫び申し上げます。

同朋部

部長
加藤　学

●具体的な活動・予定●
　同朋部では同朋運動連続講座を開催しています。今年度は３月 17 日に第6期の最終回を開催し、来年度からは第7期を開講いたします。また、運動広報紙『ざんぎ』を発行しています。

●活動の課題●
　コロナによって様々な活動が休止していたので、活動のノウハウだけでなく、携わっている人同士の繋がりや熱意も伝わりきらずに途切れてしまった部分があるように思います。ただ、その現状だからこそ初心に立ち返りつつ、新たな一歩としての活動を展開したいと思います。

●読者へのメッセージ●
　「私はすべての命を尊厳あるものとして向き合ってきたか」という問いを大事にしながら、「すべての命が尊厳をもって生きることのできる社会」に向けて１人でも多くの方と課題を共有し活動をともにしたいと思います。

※次年度から開講される同朋運動連続講座に少しでも興味、関心のある方は是非ご参加ください。
（講座の詳細は教務所担当職員・木村まで）

保育連盟

理事長
佐々木正利

●具体的な活動・予定●
　今後の予定は、令和7年8月に第3ブロック（富山、高岡、石川、福井、岐阜、東海）の保育連盟大学講座を、長島温泉にて保育関係者が200名以上集い、一泊二日で開催いたします。講師のお一人には教育心理カウンセラーの富田富士也先生（昨年の著書に「悩んだら『歎異抄』」）をお招きして研修を行います。

●活動の課題●
1.保育大学講座開催に、費用がかかり、参加者の参加費が高額になること
2.東海教区保育連盟の会員園数が少ないこと

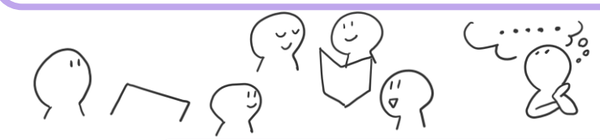
寺族青年連盟（寺青）

会長
麻布浩明

●具体的な活動・予定●
　毎年研修会と研修旅行を企画しています。令和6年度はタイへの研修旅行を開催しました。また、今年度は5月に能登半島地震災害復興ボランティアを企画開催し、3月には金城六華園への奉仕活動をしました。

●活動の課題●
　なるべく多くの方に参加していただけるように、活動内容を充実させていくことが課題です。

●読者へのメッセージ●
　今後も様々な行事を企画致しますのでお気軽にぜひご参加ください！



社会福祉推進協議会（社推協）

副支部長
安田　淳

●具体的な活動・予定●
・金城六華園支援活動
・社会福祉施設自主製品紹介事業
・福祉とうかい募金活動

●活動の課題●
・様々な支援団体との調整不足
・教区内には多数の該当施設が存在していると思われるが、それらの施設とのコンタクトが取れずに、紹介製品の広がりがない。
・教区内寺院等からたくさんの募金がありながら、運用先が限られている。

●読者へのメッセージ●
　全教区唯一の独自活動を展開していることが誇りです。

特集

能登半島地震ボランティアレポート

復興したと言える日まで

～私たちが今できること～

令和6年1月1日の「能登半島地震」から1年が過ぎました。また同年９月の豪雨による甚大な被害も記憶に新しいところです。3月3日～5日まで「本願寺派能登半島地震支援センター」が行なうサロン活動に東海教区少年・寺青・仏青三団体合同研修会としてボランティア活動に参加しました。活動の様子、被災地の近況などお伝えします。

活動その１　珠洲市宝立町（すずしほうりゅうまち）真浄寺さまでの活動

午前中は金沢市内から車で約2時間半、能登半島の珠洲市宝立町にある本願寺派真浄寺様での活動でした。ご門徒さまと一緒にお勤めをしたり、担当者からの法話や傾聴活動を行ったりしました。

活動その2　鳳珠郡能登町（ほうすぐんのとちょう）まつなみ第一団地仮設住宅での活動

午後からは能登町松波地区の仮設住宅に併設される集会場にてサロン活動を行いました。レクリエーションをしたり、体操をしたり、お話を伺ったり、あっという間の時間を過ごしました。

金沢別院にて　本願寺金沢別院は本願寺派ボランティア活動の拠点ともなっています。

初日に別院内でボランティアのレクチャーをいただき、最終日には参加者全員でお参りをしてきました。

本願寺金沢別院内には、今回の地震で被災された本願寺派寺院の写真がパネル展示してありました。地震の被害がいかに大きいものかその一端を知ることができます。本願寺金沢別院自体の被害は瓦が落ちたり、柱がずれたり、灯篭が倒れたりしたそうです。また、地震の揺れで落下して真っ二つに割れたものを「金継ぎ」で修復した九谷焼の香炉も拝見しました。本願寺金沢別院の歴史なども職員の方からお話いただき有意義な参拝となりました。

ボランティアを終えて　～参加者の感想～

ボランティアスタッフ一同を地元の方々に温かく迎え入れていただきとてもありがたい時間を過ごせました。

「家屋が取り壊されてがれきも撤去されて更地になってゆくと、復興してゆく中ではあるけど住み慣れた町の風景が変わってゆくことに寂しさを覚える」との言葉が印象的でした。

ニュースとなっていた岩手県の山林火災に涙を浮かべながら心配されている姿が印象的でした。私自身がどれだけ被災者の気持ちに共感できていたかを痛感させられました。

自分事として物事をとらえ、何ができるかを考えながら行動することを心掛けていきたいと感じました。

被災された方の心が少しでも穏やかに過ごせますよう、ボランティアの輪が広がれば良いなと思いました。

過去の震災の教訓を生かして支援などの整備が進められていると考えていましたが、仮設住宅にお住いの方が「入居するのに半年かかった」と教えてくださったのが印象に残りました。

別院職員さんの「復興はまだ途中です」の言葉が印象的でした。能登半島地震のボランティアは減少傾向にあるとのことで「途中」の言葉の重さが身に沁みました。

お話を伺っていく中で、ご縁や、人と人とのつながりが被災地の力になっているのだと実感できました。

このまま皆の関心が薄れていってしまうのは被災地の方々にとって寂しさと不安を感じさせることだと思います。

"傾聴"ボランティアと聞くと気分が重くなるようなイメージを持っていました。実際は一期一会の素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

仮設住宅での生活を続けなければならない現状を聞かせていただく貴重な経験でした。復興はまだ時間がかかると思います。途切れない支援が必要だと感じました。

また是非ボランティアに参加したいと思える、貴重なご縁をいただきました。

おわりに　～ボランティア後記～

本願寺金沢別院を参拝の地元の方とお話をする機会がありました。「実家は志賀町にあって地震の影響で今度取り壊すことになったの」と寂しそうに話してみえました。確かに金沢市内などは以前と変わらない賑わいを見せているようにも感じられました。しかし、そこで生活する方々には、それぞれの事情や思いがあります。心の内をお話いただくことで、映像やネットなど表面上のニュースではわかりにくい部分に気づくこともできました。

また、ボランティア先に近づくにつれて「傾いたままの電柱」「倒壊した家屋」「津波被害の建物」など地震の影響がまだまだ色濃く残っている現状を目にしました。個人のお宅でもあることから今回はそのような状況を紙面に掲載することは控えましたが、復興途中であることを強く印象付けられました。紙面で伝えきれないことが多く、みなさんにも現地に足を運んでいただきたいなと感じました。「復興した」と言えるのはまだ先のことかもしれません。私たちにできることを少しずつでも行いましょう。

『ゆく年くる年』

昨年９月から今年の２月まで鐘楼の修復工事をしていました。工事期間中は梵鐘を撞くことが出来なかったので、除夜の鐘もお休みすることになりました。ただ、そう思うと除夜の鐘を撞かない年末年始なんて後にも先にも今回限りかもしれないと気づきました。ならば、この日をどう過ごそうかと考えて…

『カウントダウンコンサートとかに行こうかな』と思ったのですが、小さい子どももいるし、そもそも考え始めたころにはチケットの申込期限を過ぎていました。だったら『子どもと一緒に除夜の鐘を撞きに行こう!!』と思いました。当山の除夜の鐘は１月１日の０時が撞きはじめなので、我が子はその時間は布団の中です。改めて考えると私も他のお寺の除夜の鐘ってほとんど撞いたことはありません。だったら、夜８時ぐらいで鐘を撞きに行くのはどうかな？と家族に相談すると乗り気です。ただ、知り合いのお寺さんに尋ねてみても、夜８時はどこも撞いてないとの回答で、この計画も頓挫してしまいました。それなら『普段よりも早い時間に布団に入って背徳的な暖かさを感じようか』と考え始めました。

ただ、いざ大晦日当日になったとき「除夜の鐘を中止することは寺報などに書いてきたけど、除夜の鐘には里帰り中の子ども連れの人も来ているなぁ。その人たちは工事をしていることも知らないかも。」と思い当たりました。

それなら来られた方をお迎えして事情を説明する人がいるよね、それは住職がいいよね、とあっさり話がまとまって、鐘は撞かないのに例年と同じように過ごすことになりました。

実際に年をまたぐ時間になると、何人かの方がお寺に来られました。工事のことを知らない人もいましたが、中には工事のことを知っている人もいて、「除夜の鐘は撞けないけど、お寺にお参りして新年を迎えようと思ってね。」と嬉しい言葉をかけてくださいました。その中には子ども会に参加していた20代男の子３人組や、一緒に年越ししようと集まっている若い４人組もいました。鐘を撞かないので私も会話に参加できて本堂でゆっくり過ごせました。ただ、ふと気が付くと例年だともう鐘を撞き終えている時間、それなのに若者が話を終える気配は全くありません。思い切って「みんなはこの後一緒に過ごす場所はあるの？」と尋ねると「はい。誰々の家で過ごす予定です。」と返事がありました。「なら、ここはそろそろお開きにしようか。」と解散することにしました。

なぜか除夜の鐘を撞く年よりも寝不足の朝を迎えましたが、嬉しい思いで一年を始めることができました。

～編集後記～

とうかい671号をお届けします。１月中旬に開いた今号の編集会議には部長が名古屋駅直結の某百貨店で毎年開催されるバレンタインフェアのチョコレートを差し入れしてくれました。会議後は広報部の新年会もあって、普段はオンラインでの編集会議が多い中、実際に顔を合わせて色々な話ができました。盛り上がった新年会から帰る前には皆で某百貨店にも寄ることになりました。買っていったお土産のお陰で、夜まで出ていたけど家族の機嫌もよかったです。（百貨店のバレンタインイベントは今まで素通りでしたが意外と楽しかったです）

某広報部員